

滋賀県道路公社経営計画

平成29年度～平成31年度
(2017年度～2019年度)

平成29年3月

滋賀県道路公社

目 次

1. 会社の概況	1
2. 経営の現状	3
3. 琵琶湖大橋有料道路第6期事業	4
4. 中期経営計画	5
5. 計画の実現に向けた取組み	6
6. 目標値の設定	9

1. 会社の概況

当社は、通行または利用について料金を徴収することができる道路の新設、改築、維持、修繕その他管理を総合的かつ効率的に行うことなどにより、滋賀県内で幹線道路を整備促進して交通の円滑化を図り、もって住民の福祉の増進と産業の発展に寄与することを目的として、地方道路公社法に基づき、昭和47年3月に設立されました。

今日までに近江大橋有料道路ほか4路線の有料道路を無料開放し、県に引き継いできました。

現在、当社が管理している道路整備特別措置法に基づく営業路線は、「琵琶湖大橋有料道路」「大津港駐車場」の1有料道路と1駐車場です。このほか、守山市吉身のJR跨線橋の高架下で月極駐車場を、琵琶湖大橋の西詰めにおいては道路利用者の休憩所や売店・レストランと、県産農水産物の直売所を併設した道の駅「びわ湖大橋米プラザ」をそれぞれ管理しています。

路線名等	延長・台数	建設費	料金徴収期間等
琵琶湖大橋有料道路	15.4km	43,280百万円	昭和39年9月28日～平成41年8月4日
大津港駐車場	151台	1,500百万円	平成9年4月1日～平成39年3月31日
吉身高架下駐車場	25台	2.8百万円	(平成12年10月1日供用開始)
道の駅びわ湖大橋米プラザ	—	746百万円	(平成8年10月8日供用開始)

【図表 1】 会社が管理している路線等の概要

当社は、有料道路等を借入金で建設し、供用後は利用者からの料金で維持管理をしています。このため、良好な維持管理による安全で快適な有料道路等の提供と、利用者ニーズに対応したサービスに努めるとともに、料金徴収期間内に建設費を確実に償還していくことが当社の責務です。

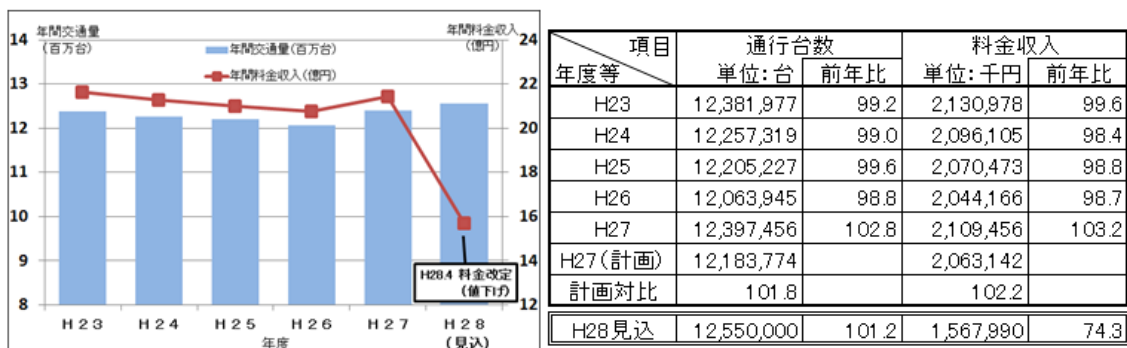
(1) 琵琶湖大橋有料道路

平成28年1月20日に国土交通省近畿地方整備局長より事業変更許可を受け、3月1日より第6期事業に着手するとともに、4月1日に料金改定(値下げ)を実施しました。

通行台数は、近年は減少傾向にありましたが、平成27年度は対前年度比102.8%と回復に向かい、安定しています。

平成23年度に策定した琵琶湖大橋の長寿命化計画に基づく、琵琶湖大橋旧橋の床版補修工事や歩道修繕工事、架設後50年が経過した吉身跨線橋などの橋梁補修工事を計画どおり終了し、所定の耐震性や耐久性を確保してきました。

また、舗装についても、大規模な修繕区間を設定しての修繕は平成 28 年度に完了しています。



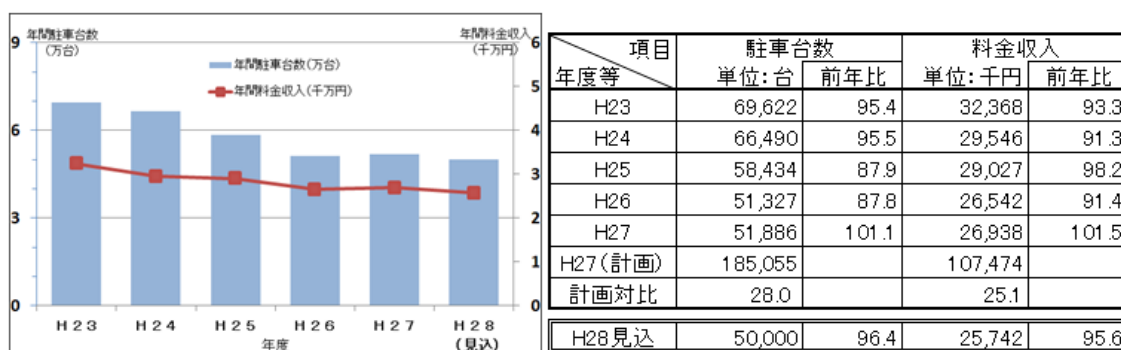
【 図表 2 】 琵琶湖大橋有料道路の年間交通量と料金収入の状況

(2) 大津港駐車場

大津港駐車場については、経費面、実行性、維持管理等を総合的に判断し、県（港湾管理者）に替わり当公社で建設することとなり、「大津市駐車場整備基本計画書（平成 3 年 3 月）」を基にし、平成 7 年当時の駐車場不足の実態、大津港改修整備および市街地再開発計画の動向を踏まえた事業計画により整備を行いました。

その後、周辺に駐車場が整備されたことや、市街地再開発事業が中止されたこともあって、浜大津周辺の駐車場の需給状況が変化している中、1 日上限料金の設定、広告媒体を活用した広報により継続的に利用促進を図ってきましたが、駐車台数と料金収入は開業時の収支計画を下回っています。

なお、平成 25 年度に策定した修繕計画に基づく補修工事は終了し、駐車場本体は健全な状態で維持管理しています。



【 図表 3 】 大津港駐車場の年間駐車台数と料金収入の状況

(3) 吉身高架下駐車場

吉身高架下側道における違法駐車対策および通勤通学時間帯の交通事故防止から、地域の交通安全、生活環境の改善等住民の福祉の増進に貢献しています。

(4) 道の駅びわ湖大橋米プラザ

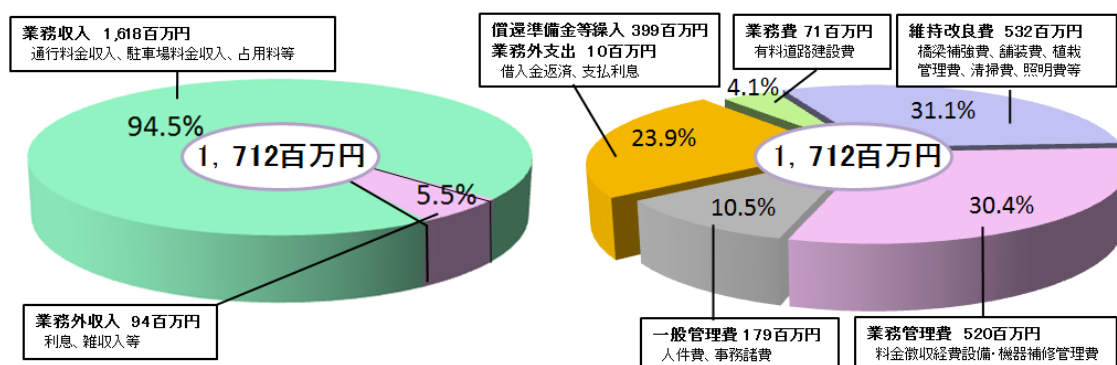
休憩所機能のみならず、道路利用者や地域住民へのサービス提供の向上に努めています。平成25年度に策定した修繕計画に基づく壁面補修工事は終了しましたが、その計画を策定した際に経過観察と位置付けた部分もあることから、建物の状態を定期的に点検するとともに、必要な維持補修を実施しています。

2. 経営の現状

(1) 収支の状況

平成28年度（平成29年2月現在の決算見込み）の収入の総額は、約17億円であり、そのほとんどが料金収入となっています。

一方、その用途として、総額の約76%は安全・安心・快適な通行を確保するために必要な道路の改築および維持管理経費に充て、残る約24%を建設に要した借入金の返済および利息支払い等に充てています。



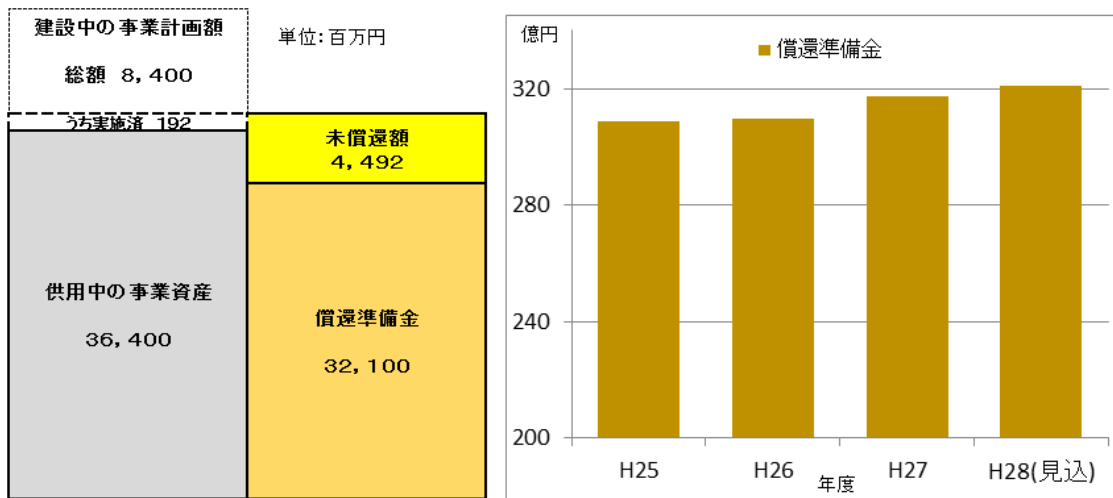
【 図表 4 】 収支の状況（平成28年度決算見込み）

※平成29年2月末現在の決算見込み額で作成しています。
※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しています。
※端数処理の関係上、合計が合わないことがあります。

(2) 事業資産と償還の状況

平成28年度末（平成29年2月現在の決算見込み）の事業資産額は366億円（建設中の2億円を含む）となっています。

一方、償還の状況を示す償還準備金（各年度に借入金返済に充てた金額の累計額）は321億円で、償還率（事業資産額に対する償還準備金の比率）は約87.7%になっており、過去3年の償還の状況からも、着実に償還を進めています。



【 図表 5 】 事業資産と償還準備金の状況 (平成28年度決算見込み)

※平成29年2月末現在の決算見込み額で作成しています。
 ※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しています。
 ※端数処理の関係上、合計が合わないことがあります。

3. 琵琶湖大橋有料道路第6期事業

平成26年度に当公社の設立団体である滋賀県は、経営状況が良好な琵琶湖大橋有料道路のあり方について、学識経験者、道路利用者団体、経済団体および地元行政機関が参画する「琵琶湖大橋有料道路のあり方に関する研究会」を設け、検討を重ねられました。この研究会の取りまとめ結果、国との相談結果および県財政の状況等を踏まえ、知事が滋賀県議会平成27年6月定例会での提案説明において、利用者の利便性向上に寄与し、緊急に対応が必要と判断される事業を追加し、琵琶湖大橋有料道路の建設有料事業を継続するとの方針を示されました。

当公社では県や国とも協議を重ね、新たに追加する事業の計画を策定し、この内容を盛り込んだ建設有料事業の計画変更について、知事および県議会の同意を得て、平成28年1月20日には近畿地方整備局長から許可を受けました。今回の追加事業（第6期事業）には、同年3月1日より着手したところです。

なお、第6期事業の円滑な実施には、県の人的、技術的支援が不可欠であり、県との協議、連携を緊密にしていきます。

第6期事業の概要は、次のとおりです。

- 事業費 84億円
- 工事期間 平成28年3月1日 ～ 平成41年3月30日
- 事業内容 ◆ 琵琶湖大橋本体の耐震対策
平成28年3月～平成36年3月（完成予定）
琵琶湖大橋有料道路は管理区間のほぼ全線が滋賀県緊急輸

送道路に指定され、災害時の避難路や物資輸送路としての重要な機能を担っています。琵琶湖大橋が大規模地震に見舞われ、復旧に長期間必要となった場合の社会的影響は非常に大きいことから、耐震性能を向上させる必要があります。このため、橋梁基礎部の耐震対策を行います。

◆ 国道477号の4車線化

平成28年3月～平成41年3月（完成予定）

琵琶湖大橋前後の一部区間において、現状で著しく混雑している区間があり、国道161号（湖西道路）の坂本北ICから真野ICまでの4車線化等によりさらに混雑が増す予測がされています。このことから、混雑緩和など交通の円滑化を図るため、琵琶湖大橋を挟む直近区間の4車線化を行います。

◆ ETCの導入

平成28年3月～平成31年3月（完成予定）

利用者の利用環境の改善を図るため、料金所にETCを導入します。

○料金徴収期限 平成41年8月4日

今回の事業変更では、公社の財務状況や道路に係わる諸環境の変化を踏まえ、将来交通量や車種構成などの条件の変化に応じた収支計画の見直しを行い、平成28年4月1日に料金改定（値下げ）も実施しました。

	普通車	軽自動車	大型Ⅰ	大型Ⅱ	軽車両(原付)
旧料金	200	150	300	710	20
新料金	150	100	200	500	10

4. 中期経営計画

琵琶湖大橋有料道路第6期事業の実施を含め利用者へのサービスの向上を図るため、健全経営を維持し、強固な経営基盤の確立に向けて、平成29年度から平成31年度までを対象とした「中期経営計画」を策定して、主体的な経営に取り組むこととします。

(1) 基本理念

安全、安心、快適で環境に配慮した有料道路を提供して、県民の福祉の向上と産業経済の発展に寄与する。

(2) 経営方針（「四方よしの道づくり」をめざす）

① 利用者によし：安全、安心、快適な道路を提供して、利便性と利用促進を図る。

- ② 社会によし：道路整備計画の一翼を担い、滋賀県の発展に貢献する。
- ③ 環境によし：地球温暖化対策に寄与するなど環境に配慮した取組みをする。
- ④ 事業者によし：事業の効率化を推進し、健全経営を維持する。

(3) 計画期間

3年間（平成29年度から平成31年度）

5. 計画の実現に向けた取組み

当社の基本理念、経営方針を踏まえ、琵琶湖大橋有料道路第6期事業の成果を一日でも早く利用者の皆様に提供できるようにすることを重点的な課題としてとらえ、以下の項目の達成に取り組めます。

(1) 琵琶湖大橋有料道路第6期事業の着実な実施

① 実施計画

平成27年度から事業計画の完成予定である平成40年度までの事業費予定額は84億円となっており、そのうち平成29年度から平成31年度の中期では、約25億円を見込んでいます。

実施する建設事業については、「耐震対策」は設計、関係機関調整から工事の着手、「4車線拡幅」は測量、設計から用地取得の着手、「ETCの導入」は平成31年4月の供用開始を目標とします。

年度 項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
琵琶湖大橋 耐震対策		設計・関係機関調整		
			耐震工事	
国道477号 4車線拡幅 (大津側) (守山側)		設計・関係機関調整		
		用地交渉【用地立会・丈量作成・買収・物件移転】		
ETCの導入	設計			供用 
		工事		

【図表 6】 中期計画期間内の事業実施計画

② 中期の償還目標

平成29年度から平成31年度の中期においては、ETC供用に関連した施設、環境整備に経費を要するものの、総額約8億円を償還準備金に繰り入れることを目標とします。

(2) 安全・安心・快適な道づくり

琵琶湖大橋東詰交差点について、朝夕の通勤時間帯に大きな渋滞が発生しており、これの緩和、解消に向け、交差点改良に取り組みます。

琵琶湖大橋の長寿命化に向けた橋桁の塗装塗り替えや基礎鋼管杭防食を実施していきます。取付道路部も含めて、現地の状況に応じた路面の補修を行い、快適さと安全性の確保に努めます。

また、道路メンテナンス会議等の場を活用し、周辺自治体など他道路管理者との情報交換や技術協力を図っていきます。

(3) 計画的な維持管理

平成 28 年度に策定した「滋賀県道路公社インフラ長寿命化計画（行動計画）」に基づき、個別施設ごとの長寿命化計画（個別施設計画）の策定に向け検討を進めます。

大津港駐車場、道の駅びわ湖大橋米プラザも供用後約 20 年が経過していることから、維持点検や個別の劣化診断の結果などを勘案し、適切な設備更新を実施します。

設備更新にあたっては将来の使用を見通し、機能維持の更新のみならず、ライフサイクルコストの低減や利便性の向上など新技術も踏まえた更新を進めます。

(4) 利用者サービスの向上

利用者から寄せられるご意見、ご要望について十分に検討し、可能なものは積極的に取り入れます。

特に、琵琶湖大橋有料道路の ETC 整備については、各方面から早期供用のご要望をいただいております。関係機関とも連携して一日も早い供用に向け努力します。

また、通行料金について、ETC の供用に併せ、現行の回数通行券による割引に比べて、より多くの利用者を対象とすることができ、割引率の高い ETC 通行割引の運用を行ないます。（なお、これに伴い回数通行券は廃止します。）

	現行		予定
割引の対象	回数通行券	ETC 供用	ETC 通行
利用率	48.54% (H27 通行実績)		62.00% (H27 ETC 搭載率調査結果)
割引率	7.73 ~ 18.50 %		20%

【 図 7 】 回数通行券割引と ETC 通行割引の比較

利用者が、分かりやすい情報を容易に入手できるよう、継続的にホームページのリニューアルに取り組みます。

(5) 地域との連携強化

利用者に対して、琵琶湖大橋有料道路第6期事業の内容やその必要性を説明し、理解と協力を得るよう、ホームページでの紹介や道の駅びわ湖大橋米プラザでのパネル展示に加え、琵琶湖大橋の検査路見学等の広報活動を行います。

琵琶湖大橋は地域の観光資源にもなっており、近年盛り上がりを見せる自転車による琵琶湖一周（ビワイチ）においても、重要なスポットに位置づけられています。このため、地域の観光振興への取り組みにも道路管理者として協力していきます。

(6) 健全な公社経営

① 収支の健全化

質の高い管理サービスの提供を前提とし、安全性に配慮した上で、引き続きコスト削減の取り組みを進めます。

現在、利用、収入が低調な大津港駐車場については、引き続き経費の節減と下記に示す経営改善策を講じていきます。

◇ 利用しやすい料金の検討

複雑化している回数券について、集約を図り、より利用しやすい売価、割引率の商品とします。

また、駐車場を取り巻く状況を十分調査し、駐車場の特性や周辺状況を考慮した利用しやすい料金の検討を行いません。

◇ 使いやすい駐車場

地下式駐車場の入口案内について、初めての利用者にも分かりやすい表示を工夫します。

◇ 販売促進活動

降雨時等においても快適に乗り降りができる地下式駐車場の「強み」を積極的にPRし、定期券、回数券の販売促進活動により購入者の新規獲得に努めます。

◇ 抜本的な経営改善策の検討

中長期的な視点から、本来管理者への引継ぎも見据えた抜本的な経営改善策として、駐車場の管理運営体制の見直し方策について検討を進めます。

② 組織体質の健全化

公社の社会的責任を果たすため、役職員のコンプライアンス意識の向上を図ります。

情報セキュリティ意識の向上やセキュリティ事案発生時の適切な対処に関する理解の促進を図ります。

6. 目標値の設定

目標の達成度を測定するため、平成29年度から平成31年度にかけての目標値を下表のとおり設定します。

毎年度、設定した目標値の達成度を点検・評価し、決算時に公表しておりますが、今後も同様に毎年度の公表を行い、事業の促進を図っていきます。

項 目	指 標	現 在	目 標 値	
			目標年度	達成度
<琵琶湖大橋有料道路> ① 琵琶湖大橋基礎部耐震対策 ② 国道477号の4車線拡幅 ③ ETCの導入	事業進捗	設計中	H30	工事着手
	用地測量	測量・設計中	H29	用地測量完了 L=2,600m
	建物調査	測量・設計中	H30	建物調査完了 1式
	用地買収	測量・設計中	H30	用地買収着手
	事業進捗	設計完了	H30 (H31.3)	整備完了
		—	H31 (H31.4)	供用開始
<大津港駐車場> 利用促進の取り組み	新規施策	—	H31	2件
<道の駅びわ湖大橋米プラザ> 空調設備更新	設備更新	—	H30	3台